

21

9

8

7

6

5

4

3

2

1

JAPAN

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

TANIGAWA

100

90

80

70

60

50

40

30

20

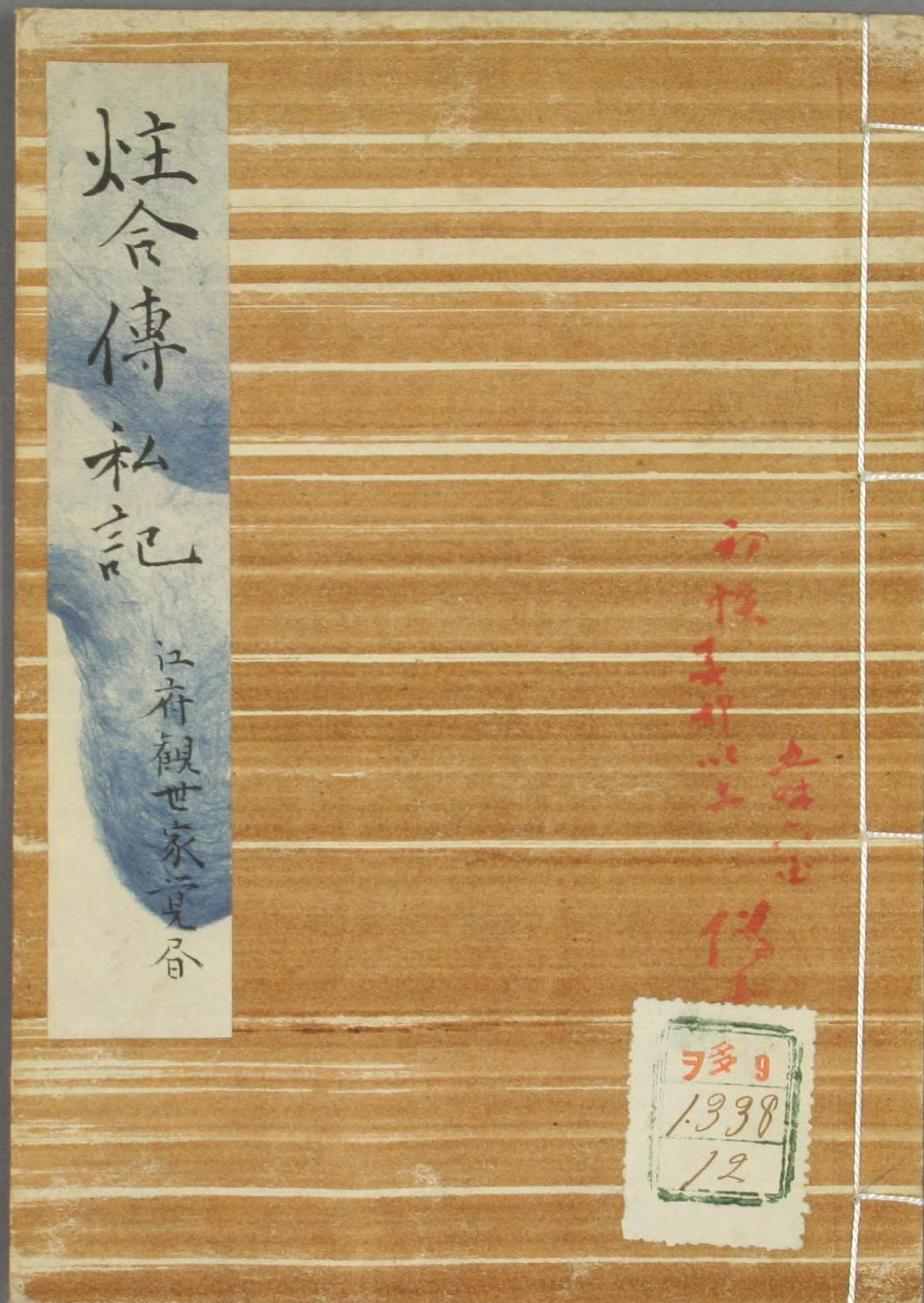
10

0

柱合傳私記

江府觀世家實名

行性玉井以上  
在之士  
健



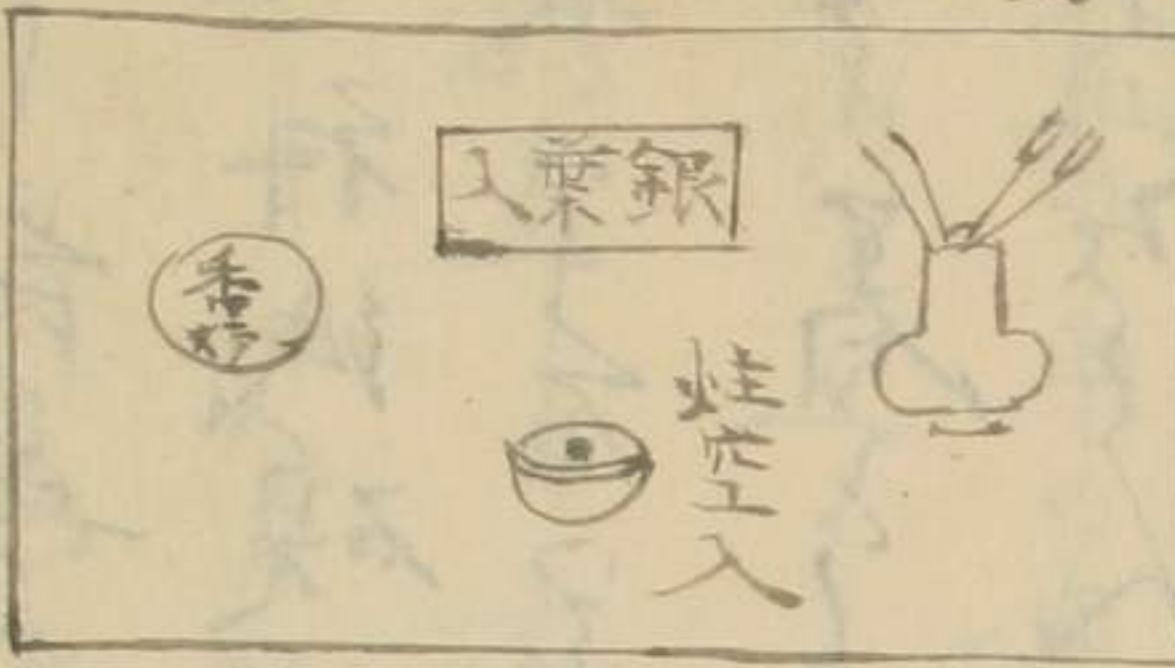
急  
門號  
1938  
12

爐合香之傳真行草灰注



一木盆錯石長盒

古建木香炉  
火箸  
向銀葉入  
前炷空入  
左杏炉



四方盒時  
先空入建銀葉  
香炉火順、至

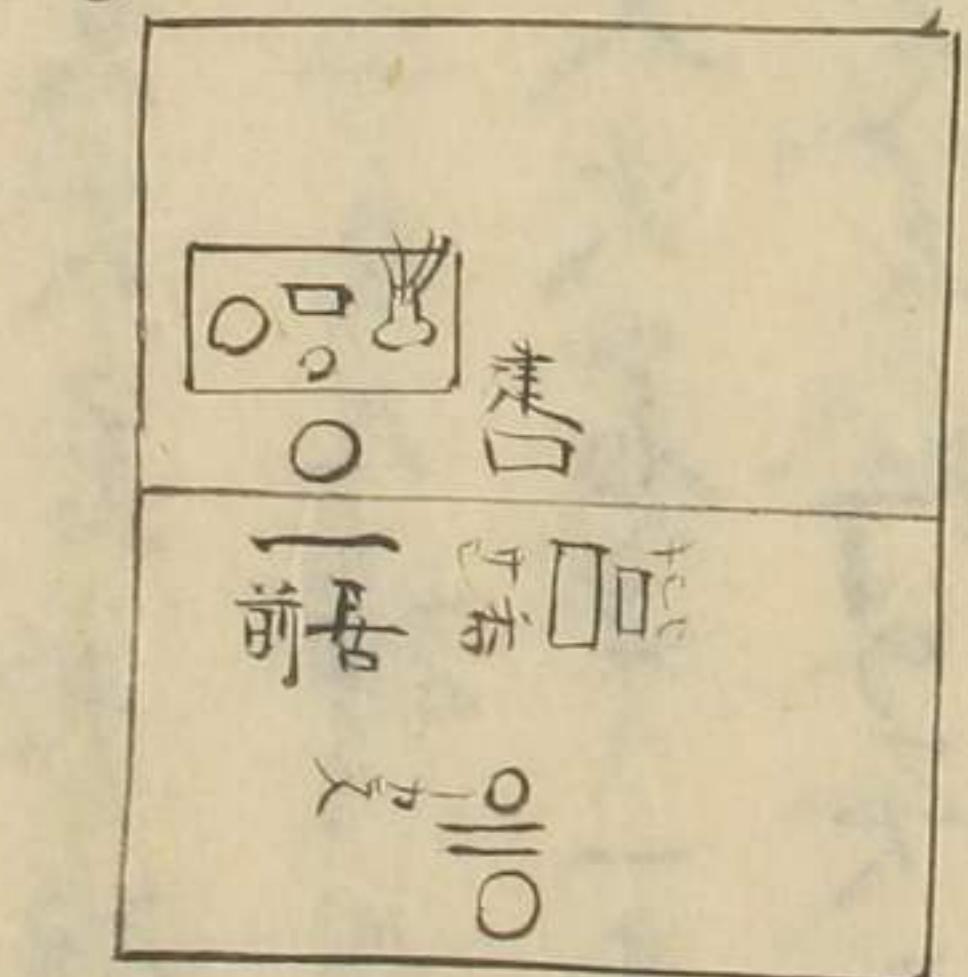


貳

右の三一長臺節付朱漆邊板附書院  
節付科紙硯水引同様飾付座臺  
小火取付座臺節付  
一各柱子着主柱支口出れ有丁窟  
前川を人とあくわく又出で穴  
と火取裏と川火と大と取付事無  
床柱の下にれとて立柱例の柱  
似例のれすい左方車の立柱支付  
直角付とよしらねたく支付長臺

取付着盒も立柱あり古まく事の間

先柱入とて火の垂  
落より半身の各柱立柱  
と取盒の角の角に圓すれど



柱と柱上と立柱たのとをモ  
れと出一火の垂とて火とよし火とモセ  
火とモテ不やとえ炭風とえとかいたと明

火と火火取りて移る方事の如き  
火をあらかじめまつて少しあてて生板大器  
とぬき火と上半身も本と建たしもすて  
所と押付の一箇とて其火とて羽帝  
の火と考仰の内とよき又一箇ん押付  
かひそく革の火と又火と一本足  
押付考仰とて行の火と  
又火と小節例の火と十箇付とて

手真の火とがる火と明火とて  
火とあらかじめ度と戻し火合と戻すがと  
お盆の三分一各付の方へりと金盒と川と  
懷中とぬき火と濃茶とてあらかじめ  
き盒と拭いア先たまのうちと向  
かあくまくねじ火と手と向  
ちとぬき火と手と手と向  
あらかじめ盒の手と三の手の火と  
戻し火と

右の角と折角でか一匁を出さば  
たゞ徒のう縛をもじりて書がちれり  
折角でまゝ手寫りふむ 煙燭の香と  
左の練り紙金香折りあひて右折  
直筆が入れて折口向くへ 右の房園の  
如き生火を其向へ生角 括木まゝ  
とぬきも無の年をまづくはまゝ限る所と括  
ちえんちえん右の練り 銀ととまみ銀と入らば

左の折と限るは限ると生る若くもすゑ  
方角、角のうまくくうけ玉名掛まく括  
限るをあくまで様ええの度の玉名  
とまづて手と人間を木生葉と取手とすみ  
限るをもすゑ立ち建たる 玉竹玉上を  
試て食ひやけ真中立をなすとあひて  
左の角とおまづとおまづとまづと外の通  
と上空、出来形の如きと興味と傳ふ

上客以承てすて理手半常のくむを  
所へ人をうむるをめでて香竹へとす  
ましゆかねね主、ましゆ主すて下よ多時活と尋  
ては主何て香と香活のと香と尋今夏  
ト不をもて其時またやまとくらに辞退  
ゆふとよれのとみがは山再通とすてちうりは重もれ  
まきゆうゆの程出ち連もるの地もくられ上もすて  
次四つとも香活と草もく主ひく主すてり玉活  
とヨリ主はまく金四つとも活活の八割を付か  
一重んとおとと再會すて四つとも山あん香活とす

板あさとゆくはまの其時主すて又盒と生す上を  
以れとてゆ四すて始づて次と因り主  
主すて下よ玉活の香とくとえ限をすと  
板あさと板と火あとのセとくとくと香竹と  
盒の半通だく限を入て真中更く右よ玉盒と  
廻すとせすはま事とまを仕ぢ却て香活活の半  
ト上よとくわく合とてありとくはちと半と香活  
は合とけりと連すの附合とて主とと車とと車  
あとととととととととととととととととととととと

建を金の所と銀の所とすれ様にお走のう  
と立ねましと金の真中へ走りすくはる多  
恨をあふれ蓋とれ香りとれゆきとれすあり角の  
外すあおほれとれとれとれとれとれとれと  
ちよ食うけ恨をなえり生板子  
とさきが底至へのぞて走りまつめ走  
轍のまづけの主上を以れてますす  
きあらきまのむらわしと馬と門と  
き

御のまのむすみの御の御の御の御の御の御の御の  
御の御の御の御の御の御の御の御の御の御の御の  
車に走りとまめ上を下す御の御の御の御の御の  
御の御の御の御の御の御の御の御の御の御の御の  
李作風と入建をと基河をとれ香と在草  
木の木の木の木の木の木の木の木の木の木の  
木の木の木の木の木の木の木の木の木の木の木の  
木の木の木の木の木の木の木の木の木の木の木の  
木の木の木の木の木の木の木の木の木の木の木の木の

其以水と雪と爲名來之我終焉。  
あくまでも雪と見て若事あれば多きに  
て是れの狀より全無といふ事とまゝス  
車も亦車の事の而致、何をいふ所乎年  
す人教以舟ノ二頭と云即ち廻るの若  
其間は大船で大と仕りより極上者と見  
う事の内は至らぬ事一之上者と見て  
一頭廻り主として泥馬と大あひて居

がとかのそく片付銀手入れ蓋とある  
やまと仰向て走るも並び度と云ふ年  
左のを爐火入と云ふと泥馬と蓋  
の年へと爐火入と云ふ年有の木手  
箸と浮て盒と上と云ふ上をも泥馬の  
爐火と云ふし泥馬と入炉て廻る事根柢  
火と爐火と云ふ事一其間もも雪がとれず  
大ふれ一少さん火事もえず火事と云ふ

の仄くまよすくねと又ウロコ片付  
玉手すゆと侍の盒ゆうて我泥手す様  
とくい花入のやうとえの如き  
波多子因り達のう、ナ先手打と  
左の手入波多子向入うち更衣  
入れあはせ時主狂わざあ其時も是と  
兩より松石の手本狂假のものと  
李打ふ四つ手主狂出さるを左お

李打の左の方世匪と戻し又左折へ左の手と  
戻し又左へ五左の胸と左折へ右の  
胸と戻し向の左へ左と右の手と  
左と戻し左と右と左と右と右と  
左と各手狂え次れて四つ手主狂  
李打火取口と手脇と火と火打  
持手と節り又手番手番手番手番手番手

角一筋有三把用有元年  
各记限と本く板と主と下酒多々在  
當年年と主がの底と之密多々不見の年  
有財多々武腰と酒と出ス多々  
一路の財と連亨財今と、春秋多々三種立  
立糧也七種人板多々二種多々不捨其多  
立南多々ニ種三種多々南多々立  
立多々立神秋立無て著立

立多々附二種三種半一筋多々不捨其  
立大板ニ季多々立後多々立主  
季多々間立雜三種多々有年多々付年立  
立多々立主立主立主立主立  
立立立立立立立立立立  
立立立立立立立立立立  
立立立立立立立立立立

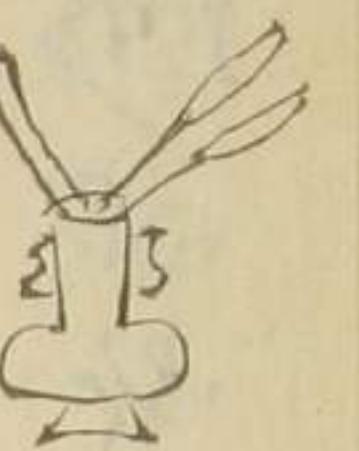
道中 南北下り 扇羽の宿場於て宿  
在す 南北下り 扇羽及て 大和高麗  
ノアモ 榛野 旅宿 旅宿とも難病あり  
も亦南季あり 宿泊内古半周 一室よ  
二三所とも有る 名所も唯一つある  
れど連車を通じ 経きよみへ 一席よ生れ  
ニテ車を出で、車を出でと見ゆるが如く去来いたへ  
連車の格よりえまほく あ半周 徒々威

を抜て行又せりけり 番合中の車下り  
抜ての役を以て、此處を今言ひ  
一隔香と半 あはれと番合の車下り 併て番合  
を抜てにしたと隔てぬと今又名をと  
焼人御りて 諸種と隔てぬと隔て  
名番と六十一種と云ふせんとと隔て  
名番と云ふと隔て番と云ふとと  
全一車と云ふと車の番と云ふと

一統、一の御所を以て従陽を以てひ短令  
は所よりそぞて貨物下に持持てせんあん  
と高木所居とすちて御と煙と煙とモトヨ  
ウを名すとけと煙と煙ととのも  
一板寺格別の半分 主店因入と河と板寺  
をかみのひとれ有て中村紙硯とえと  
着主所をかみと如事硯の墨とまく板寺  
と檜と二つとて煙と煙と煙とて煙

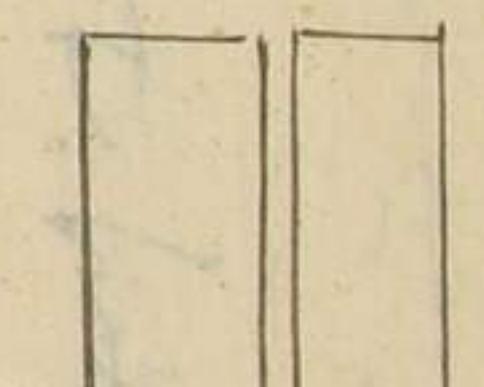
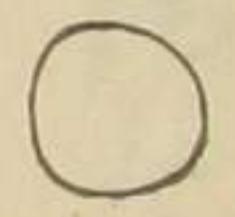
の姓名來とて書下更下に主の名來と書  
きや一項と名を字とす再々人とも  
下のま斗書年文同まあと二人以上の  
字を書年一折秀治四年文  
年平月日於何亭書之并年板付  
板寺と宣水川とよして白と上とて  
むにまと美名を書て終りケ下半勿論  
折し記述とせよ年

道具置合図

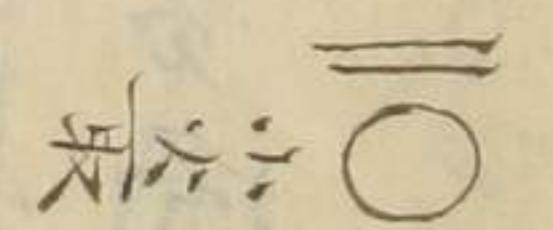


入彙銀

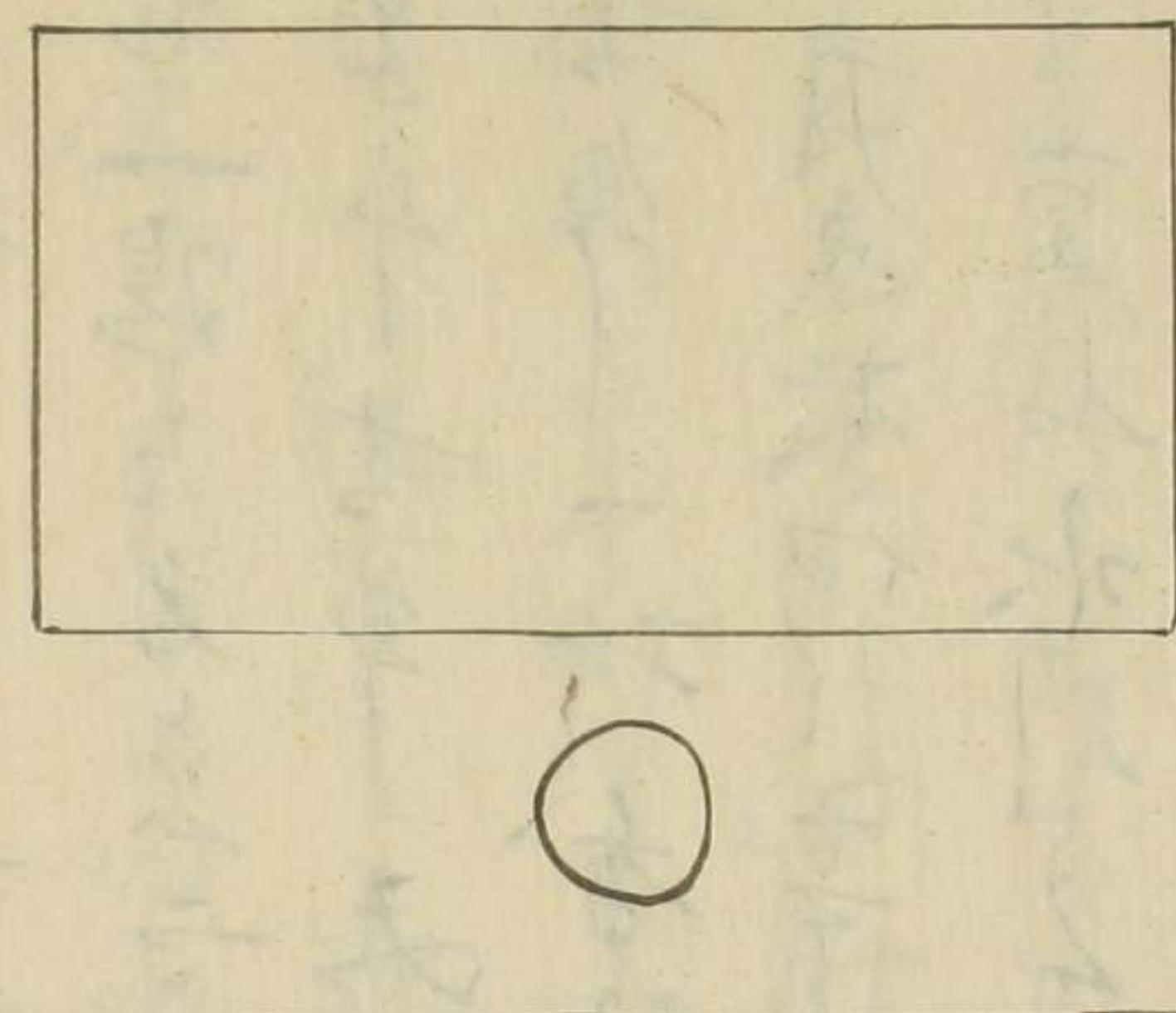
前席



前席



居前



隔杏子傳

一此外と隔年も位不合時用る先古の答  
も位と令り五味の順と令り又も煩と令る  
事依テ煩の子哉 李もまみえ事に之子ノ至  
有り丈ハ五味の順、位と合てあらず若味位  
序不合せむ 佗外と桂子味と令すう  
佗外 佗外耳古辛酸齒の五色と持て  
耳きゆく苦佗外と用ひ辛香のゆく酸

沈氏とす。金を准へて之を金板沈氏と  
別は一種あらう。其帝ノト侍令沈氏否  
の外つまゝ用ひ奉れ。丈と略く沈氏  
と故の者を含む。沈氏と一程ちよみ程八  
も有半身。且追加。う種の名手の内。沈氏有  
て味苦辛酸。三。伽。百。う。人。族。事  
を。そ。も。其。復。專。り。用。し。沈。氏。の。一。程。八。  
今も上味や位を含め終ふを備

セモ。唐ヤく。今。唯治の度今を。うち用ひ  
半身。如。位達。御。付。古。凡。と。存。と。  
沈氏と隔。う。一。席。復。今。の。下。隔。よ。今。の。商  
あ。た。る。沈。氏。

一。梅。櫻。と。隔。う。牛。一。通。う。都。テ。ヤ。ん。と。と。と。  
う。自。い。う。と。と。と。牛。ヘ。レ。テ。今。牛。形  
の。多。と。ま。と。と。と。い。筋。と。下。の。往。の。と。  
志。傳。ア。名。手。と。だ。ん。と。と。と。と。せ。ん。と。

にて鼻と清て名をと能まつて有  
用久隔て又極秘候て赤梅櫻の文六  
は陸事の少合も御承有て甚大令  
されどよ及てちやうとて時と東  
大寺の火合と枯木中川の大合とせん  
あんち大てはやうりのまつて六十一年  
え大の火合のや百て曲くとて折れ  
たるまきれと煙合と名合其外色

上下の合と後合と半と先名合と煙  
玉あさんと煙合の名合とは  
又梅櫻と加藤と火合と武と其の名合  
と煙合梅櫻の火合とあつて名合  
と煙合梅櫻の記、煙合の事と在車

